

主催… 県立神奈川近代文学館 / (公財) 神奈川文学振興会
後援… 月刊『望星』

小島ゆかり ◎ 歌人

辻原登 ◎ 作家

長谷川 耀 ◎ 俳人

半歌仙 『コロナ退散の巻』



昨年十二月十三日に神奈川近代文学館で開催された「かなぶん連句会」は、三人の選者が作った六句に続く句を参加者が考え、半歌仙十八句を完成させるといふ催し。参加者が一体となって楽しんだ当日の様相をレポートする。

連句にもソーシャルディスタンスを

長谷川 今日はお集まりいただき、ありがとうございます。すでに表六句が出来上がっていますので、つけ筋を説明していきます。

まず発句は「南無金剛病魔退散白団扇」と詠みましました。南無金剛病魔退散は、金剛力におすがりし病魔退散をお願いします、という意味です。白団扇は何も書いていない真つ白な団扇のこと。奈良の池田含香堂では、中国から魔除けとして伝わった奈良団扇を扱っています。色は赤、白、黄、茶、水色と五色あり、そのうちの白を発句に持ってきました。

小島 脇は夏の句だったので、はじめに「スイカ丸」と買つてはみたが」としました。そして、辻原さんが素晴らしい第三句をつけてくださった後、長谷川さんから「スイカは秋の季語です」という連絡があつて、「**パイン丸**」と買つてはみたが」にしました。苦肉の策ですが、振り返ってみると、このほうが个性的であったなと思つています。

半歌仙『コロナ退散の巻』
【初折の表】

発句 南無金剛病魔退散白団扇	耀	(夏)
脇 パイン丸と買つてはみたが	ゆかり	(夏)
第三 仮面割られ俺の正体露見する	登	(雑)
四 バットマン飛ぶ秋の夕暮れ	耀	(秋)
五 筋トレの窓にやさしい月が出て	ゆかり	(秋月)
六 岸から岸へ枚方の菊	登	(秋)

【初折の裏】

七 ゴミ掃除おきばりやすと鳥鳴き	酔山	(雑)
八 慌て飛び乗る反対列車	大樹	(雑)
九 七人中五人がさわる例のもの	乃里子	(雑)
十 きみの名前の金ペンダント	宏子	(雑)
十一 ストレートパーマの髪の風にゆれ	陽子	(雑)
十二 おやつだけ喰う買った柴犬	酔山	(雑)
十三 枯葉唄うイヴ・モンタンになりきつて	扇木	(冬)
十四 教師くずれの父想い出す	太郎	(雑)
十五 シネマにはタバコの煙たちこめて	久美子	(雑)
十六 金閣寺にも春の雪舞う	滋	(春)
十七 逝きし人心に描き花見酒	栗鼠子	(春花)
折端 女王のごとく春は去りゆく	久美子	(春)

ました。スイカを仮面に変えて詠んでいたのですが、小島さんが今言ったように、これがパインに変わりました。そして仮面の下の素顔として思い浮かんだのが、ジョーカー。『バットマン』に出てくる悪役です。新型コロナウイルスの発生は中国・武漢のコウモリだったことからの連想です。二〇一九年に彼を主人公にした映画『ジョーカー』が封切られ、そのキャッチコピーは「本当の悪は笑顔の中にある」というものでした。

長谷川 四句目から秋の三句に入ります。バットマンも仮面をつけているので、「バットマン飛ぶ秋の夕暮れ」に。背景はバットマンの舞台であるゴッサムシティのような場所をイメージしました。

小島 四句目までは、どこか小中学生が集まってワイワイしているような感じがあつたので、五句目は少し大人の世界を意識してみました。「筋トレの窓にやさしい月が出て」。外出があまりできなくなり、ある人が自宅で筋トレを始めました。すると、窓の向こうに優しい月が見え、その周りをバットマンが飛んでいく。そんな情景を思い浮かべました。

辻原 第六句は少し時間を巻き戻してみました。「岸から岸へ枚方の菊」。枚方は昔、京都から大阪に流れ